

## 理事長の行方

静岡県勤労者山岳連盟の上部団体は、日本勤労者山岳連盟で、北は北海道、南は沖縄まで、仲間の山岳会が点在している。

静岡県勤労者山岳連盟は、西は浜松勤労者山岳会、東は伊豆ハイキングクラブまで、18団体、約600名が在籍し、日々、奮闘している。

県連盟は、各会が輩出する理事によって、理事会が構成され、会長、理事長、副理事長（東・中・西部ブロック長）、事務局長、会計、他の役員で構成される。

会長・理事長は、年一回の総会時、選挙で承認される。連盟は、ここ3期会長が不在で理事長が兼務している。更に理事長は7期務めている。今年に入り、来期4月以降、理事長を東部ブロックで選出したらどうかの打診があった。

先般、東部ブロック会議があり、選出作業を行ったが、結局、結論がハッキリ出ないまま終了した。何故、決められなかったか、原因は種々あるが、現在の東部ブロックに決して人材がない訳ではない。

候補者は数名上がっていた。しかし、個人的能力はあっても、「会の高齢化で自分は抜けられない」「地域の仕事が多く時間がない」「自分が出て行くと、替わりの人材がない」「近々に新しい仕事を開始する」等々、言い訳的理由が多かった。

実はかつて私も3期、理事長を務めたことがある。40周年記念行事を纏め、海外登山集会を御殿場「時の栖」で開催した。3年間は充実した楽しいものだった。それは確かに、重責で多忙である。ただ、労山に長く在籍し世話になった。その恩に報いる気持ちもあった。余り長期では負担だろうが、3期くらいなら誰でも出来る。

要は、「心意気」の問題である。また、今回の理事長交代は、急に決まった訳ではない。会長・理事長は基本、各ブロック持ち回りである。

長く組織に在籍すれば、当然役割は回って来る。目された者は、「そのつもりになる」心構えを持つべきだ。

組織は、皆で支え継承して行くもの。労山で登山を楽しめる事は誰かが奮闘している。

皆がそんな気持ちを持てば、未来永劫。我が会は我が会では県連の未来はない。

